

一右御金被下向後、品川大森兩村引請ニ成候得バ、此以後万一大破出來、兩村之手際難叶節ハ、道附替可被仰付候間、其節ハ在家引料ハ被下間敷事、

一右普請所兩村引請之儀往還之道端を第一ニ仕立可申候、宿中家居之邊ハ、道端より普請之仕方劣り候而も不苦候事、

一網干場築出し願之儀、平生浪當強處ニ而築出シ候而も難保場所ニ候間、其通ニ差置可申候、依之一ヶ年ニ見取、永十八文宛上納仕來候得共、此分向後差免可申事、

右村之者共致評儀、普請引請候事難成存候ハマ、道附替之筈ニ候間否之儀可申事、

〔道中秘書五〕佐屋路旅行之儀ニ付御尋之趣申上候書付

桑原伊豫守

根岸肥前守○二人並道中奉行

參勤交代之節、東海道佐屋廻り伊勢路通行仕候儀、病氣又は風雨ニ而渡海難相成節相廻り、其段旅中より御届申上候儀ニ候哉、夫にも及申間鋪候哉之旨相伺候書付御渡被成、佐屋路之儀は、宿々も有之候義に付、勝手旅行いたし、御届等申上候にも及間鋪筋は無之哉之段、御尋ニ御座候、

此儀東海道宿々人馬百人百疋之定ニ有之、佐屋路之儀は、人馬五拾人五拾疋之持立ニ而半減之儀ニ付、諸大名參勤交代之節、勝手ニ通行仕候筋ニ罷成候はマ、渡海を厭ひ候處より、佐屋路通行之面々相増可申哉、左候而は書面之通、外宿々より人馬數も少く、繼立差支可申、且東海道之方休泊、其外往還助成相減難義仕候義故、往來之面々病氣又は風雨等に而無據節は、其段御届申上通行可仕義と奉存候、依之前より佐屋路通り之方を相廻り、旅行いたし度旨、諸家より私共鋪と、挨拶仕來候義に御座候、尤右本坂通り之儀は、享保二十卯年之御書付も有之、佐屋路美濃江問合候節も、本坂通行に准、風雨急病等之節は、格別勝手次第通行相成候と、申筋には有之間鋪と、挨拶仕來候義に御座候、尤右本坂通り之儀は、享保二十卯年之御書付も有之、佐屋路美濃